

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	鈴木智
日 時	令和元年5月29日(水曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 41 分
出席委員	◎福井 ○赤坂 田中 山本 三宅 奥野 石野		
執行機関出席者	【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [まちづくり交通課]伊豆田課長、川内主幹		
事務局出席者	山内事務局長、鈴木議事調査係長		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名(—)

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

[福井委員長 開議]
[議事調査係長 日程説明]

[まちづくり推進部 入室]

10:02

2 案件

(1) 平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画について

[まちづくり推進部長 あいさつ]
[まちづくり推進部出席者 自己紹介]

10:05

[まちづくり交通課長 説明]

10:41

[質 疑]

<奥野委員>

平成29年度と平成30年度のコミュニティバスの運行状況は。

<まちづくり交通課長>

特に亀岡地区のコミュニティバスは、運賃を改定して以降、利用者が17%程度減っている。運賃改定前から、改定後は利用者が減り、収入はふえると想定していた。また、西つつじヶ丘美山台へ路線を延伸したことにより、ダイヤのパターンが崩れてしまった。例えば、毎時10分にバス停に行けば乗車できていたものが、ダイヤパターンがずれてしまい、不便になっていることも関係しているのではないかと心配している。地域公共交通網形成計画のP25に「利用者のバスへの不満に関する具体的な意見」を掲載している。そこには「駅に行きたくても遠回りすぎて利用する気になれない」という意見もあるように、バスは速達性が大事だと考えている。

P24には、バスの満足度アンケート結果を掲載しているが、ダイヤの満足度については「満足」「やや満足」「普通」までを含めても低いことがわかる。一方で、運賃については、約7割の方が「満足」「やや満足」「普通」とされている。

<奥野委員>

西部4町のアンケート調査については、自治会単位で実施するのか。それとも、市民に対する個々のものとして実施するのかどちらか。

<まちづくり交通課長>

アンケートが作成できれば、西部4町の自治会長に説明することとしている。そこで修正等の議論をいただき、4町の市民全員に配りたいと考えている。また、できれば発送と回収は自治会にお世話になりたいと考えている。

<石野委員>

篠町のコミュニティバスは朝と夕方で6便走っているのか。以前は8便ではなかったのか。

<まちづくり交通課長>

以前は8便であったが、現在は朝と夕方で6便である。

<石野委員>

亀岡駅に行く便は、今はないのか。

<まちづくり交通課長>

現在、馬堀駅と亀岡駅に行く便はなくなっている。バスの不満に関する具体的な意見には「馬堀からの直通バスを出してほしい」という意見もあるので、アンケートの意見を十分聞いていきたい。また、経費を抑えながら目標の30%を確保していきたいと考えている。篠町のコミュニティバスは試験運行中であり、それを本格運行できるだけの利用者があるのかをみていきたい。平成30年度については、16.5%の収益率であったが、今後どれだけ上がるかをみていきたい。

<石野委員>

これからも乗ってもらえるようにしていきたい。

<三宅委員>

東別院町の交通空白地等地域生活交通事業について、もう少し詳しく説明いただきたい。

<まちづくり交通課長>

東別院町においては、バスが走っている区域以外で、近くのバス停に行くまでに何キロもある集落がある。その高齢者が買い物に行けない状況があり、東別院町自治会が支援する事業として実施されている。亀岡市としては、要綱を整備し補助を行っている。運転は地元の方がされており、事務は自治会が担われている。利用者から申込みがあれば、最寄りの所までバスで回り、利用者に乗車してもらっている。そして、府道枚方亀岡線を通り、市街地まで来られ、買い物や病院に行かれている。時間が合えば、帰りもそのバスに乗車されている。

<三宅委員>

128万8千円の補助金以外の費用は、自治会が負担されているのか。

<まちづくり交通課長>

市の要綱で定められているものは市が補助している。それ以外の分は、自治会で負担されている。

<福井委員長>

車が空いている時は、自治会が利用されている。

<まちづくり交通課長>

自治会が買われた車に、市が補助金を出したものである。

<山本委員>

補助金要綱はホームページで見るとはできるのか。

<まちづくり交通課長>

亀岡市の例規集のホームページから見る事ができる。

<山本委員>

ふるさとバスの別院コースに関して、ガレリアかめおかまで行けるようにという要望があるにも関わらず、実際は少ない人数しか乗車がないということについては、どのように考えているのか。

<まちづくり交通課長>

土休日については、東西別院町へは往復で7便、片道で1便ある。これまでは亀岡運動公園や京都先端科学大学止まりであった路線を、ガレリアかめおかまで延伸してきた。しかし、実際はあまり利用されていないのが現状である。年間の利用者が約300人であるので、これを多いとするか少ないとするかもある。現状は車を利用されている人が多いと考えている。

<山本委員>

これについて、改善することは考えられているのか。

<まちづくり交通課長>

土休日に走っているバスを全部入れている。現状を変えるということは、減らすことにもなるので難しいと考えている。できるだけ多くの人に利用してもらえよう、地元で啓発していただいている。

<赤坂副委員長>

コミュニティバスを減便することはできないと思うが、小型のバスにすることはできないのか。

<まちづくり交通課長>

現在のコミュニティバスは24人乗りであるが、これよりも小さくすることは考えていない。バスの規格の中では最も小さいものである。朝に保津川団地から亀岡駅へ行く便は、たくさんの利用者があるため、これにも対応しなければならない。また、ふるさとバスを2台持つことは難しい。別院方面からは、朝はたくさんの利用客があるが、昼間は少ないので小さいバスにすればよいという意見もある。将来的には地域で支え合っていけるようにしたいと考えている。

<赤坂副委員長>

高齢になると車を運転できなくなる人がたくさん出てくるが、山間部の高齢者が減ったときには、バスも不要になってしまう。今から地域で助け合うことを考えていかなければならない。さまざまなことについて、自治会としっかりと話し合っただきたいと考えるがどうか。

<まちづくり交通課長>

その通りである。高齢者による重大な事故も起きているが、免許を返納してしまうと、高齢者は移動できなくなってしまう。免許返納者を支える仕組みづくりは、必要であると認識している。バス停まで行けない人が買い物に行ける仕組みをつくっていかねばならないと考えているので、自治会と話し合っていきたい。各地区には社会福祉協議会もあり、連携しながら進めていこうと考えている。また、新たな公共交通網形成計画については、まちづくりと一体になり、多くの分野を網羅している。地域の支えにより、事業推進できるものであり、啓発もしていきたいと考えている。

<赤坂副委員長>

時間があまりないので、委員会で一丸となり取組んでいきたい。

次に、バスの回数券を買った場合に特典はあるのか。また、子どもたちがバスに乗りたいと思えるようなイベントは実施しているのか。

<まちづくり交通課長>

京阪京都交通は1 DAYクルーズパスを導入されている。バスを降りて、パスをお店で見せると商品が安くなったりするものである。また、亀たんパスという土休日の1日乗車券もある。ふるさとバス、コミュニティバスでは、10回乗車すると1回無料になるというICOCAカードのポイント制度がある。バス・エコファミリーという制度もあり、子どもたちがたくさん利用できるように、サービスを考えていきたい。

<赤坂副委員長>

市民や観光客も含め、バスに乗ればスイーツの特典があるというようなことを考えてみてはどうか。

<まちづくり交通課長>

参考にさせていただきたい。

<奥野委員>

フリー乗降を考えていくべきではないか。また、ふるさとバスの畑野千代川コースが広野止まりなので、学生の保護者がそこまで迎えに来ている状況がある。今後、要望が出されるかもしれないがどのように考えるか。

<まちづくり交通課長>

フリー乗降については、公共交通網形成計画の委員からも、高齢者が買い物の荷物を持って、バス停から帰るのは無理があるという意見がある。公共交通網形成計画のP34に、「高齢者等の交通弱者への対応」「ふるさとバスのフリー乗降導入」も記載されているので、実現に向けて努力していきたい。要望については、検討していきたい。

<山本委員>

東別院町の交通空白地等地域生活交通事業は、他の地域でも進めていくということであったが、どのようにしていくのか。

<まちづくり交通課長>

前の計画では、交通空白地として東別院町に対応していったものである。今後は、交通空白地のみでなく、各地域で展開していきたいと考えている。西部地域や亀岡地区もあり、できることから対応していきたい。

<山本委員>

どのように進めていくのか。

<まちづくり交通課長>

現在、西部地域の宮前町では、前自治会長から話があったので、協議しているところである。自治会や地区社協の協力がなければできないものであり、協力を得られてから進めていくことになる。デマンドタクシー等いろいろなことを考えながら、免許返納や高齢者のための仕組みをつくっていかねばならないと考えている。

<三宅委員>

山間部で個人の車を使った場合に、補助金を出す仕組みをつくれば、網羅できるのではないか。研究していただきたい。

<まちづくり交通課長>

6月20日に実施するセミナーでは、そのような話も出てくると考えている。白夕

クの問題もあり、きちんと分けて考えていく必要がある。このセミナーを通じて、我々も勉強していきたい。福知山市の三和町は過疎地域に指定されており、別の枠組みで実施されている。特区をつくるような形で何かできればと考えている。

<福井委員長>

東別院町の交通空白地等地域生活交通事業は、最初はバスが走っている幹線道路の谷まで行くということであったと思っている。このことから言うと、西部4町には、八田線があるので事業実施できないのではないか。新しい公共交通網形成計画は、地域に根差したまちづくりと整合を図りながら進めるということでのよいのか。

<まちづくり交通課長>

高齢者が外出する機会をつくることも大事である。高齢者の利便性向上に向けて取り組むものであり、通勤・通学に利用するものではないと考えている。

<福井委員長>

福祉施策となるのか。

<まちづくり交通課長>

福祉タクシーは障害者で外出が困難な方を支えるものである。

<福井委員長>

コミュニティバスの利用者が回復するという見込みはあるのか。私見で結構である。

<まちづくり交通課長>

要望がたくさん出てきていたので、100円の運賃で持続可能なバスは運営できないと考えていた。値上げすることにより、収入がふえる分で要望に応じていくというのが、料金改定の趣旨である。木津川市の例を参考に考えた場合、11%の利用者が減るが、収入は560万円ふえるという試算をしていた。平成28年度と平成29年度を比べると、収入が490万円ふえたことにより、試験運行の事業が実施できているものである。この料金のままであっても利便性が高まると、利用者がふえていくと考えている。

<三宅委員>

福祉タクシーと所管を同じにする方が、市民のためになるのではないか。

<まちづくり交通課長>

所管課としての施策である。

<福井委員長>

公共交通は要となるものであり、今後もよろしく願いたい。

<まちづくり交通課長>

公共交通網形成計画のアンケートに亀岡市民の意見が記載されており、市民の思いを大事にしていきたいと考えている。

[まちづくり推進部 退室]

11 : 31

3 その他

(1) 委員会調査について

<福井委員長>

前期においては、今年の12月に任期4年のまとめとして、本特別委員会から公共交通についての提言を行った。福知山市の三和町や南丹市の八木町等へ調査に行くことも考えられるが、今後、どのような調査を実施して、提言につなげていくのか

意見を聞きたい。

<三宅委員>

バスとタクシーだけでは間に合わない。個人の車をいかに使うかである。自治会が中心になって管理運営していただくのが1つの方法だと考える。

<石野委員>

以前、この特別委員会で南丹市に視察に行った。亀岡市と似た山間地を持つ地域に視察に行ってみようか。

<赤坂副委員長>

石野委員と同意見である。山間地があり同規模の地域に行って勉強したい。

<奥野委員>

丹波篠山市や京丹波町等に行って、どのように対応されているのかを聞いてみたい。

<山本委員>

今回の地域公共交通網形成計画は地域で支えることが主になっている。このため、他市において、地域で実施されている所に行って調査し、本市に活かしていけばよいと考える。

<田中委員>

地域公共交通網形成計画の内容は抽象的である。計画をどう具体化していくかが必要となる。第一交通はオンデマンド型乗合タクシーを実施されているが、その手法も研究してみたいと考える。また、ふるさとバスの回数券については、買える冊数をふやした方がよいと思う。

<山本委員>

スクールバスの一般混乗可についても計画に記載されているが、今日はあまり触れられなかった。このようなこともしっかりと知ることが大事だと感じた。

<福井委員長>

例えば、丹波篠山市であれば公用車で視察に行くことができるので、検討していきたい。地域公共交通網形成計画は各自で読んでいただきたい。疑問点があれば、それを出し合って委員会で検討すればよい。視察に行くことは可能であるのか。

<議事調査係長>

近隣の自治体に行くのであれば可能だと考える。予算の状況を見ながら相談させていただきたい。

<福井委員長>

各委員の意見を募り、今後の本特別委員会の運営につなげていきたい。

散会 11:41